

令和7年度 第1回宮崎県立農業大学校外部評価委員会 議事録

令和7年度第1回宮崎県立農業大学校外部評価委員会を開催しましたので、お知らせいたします。

会議の概要

1. 日時

令和7年5月21日（水）14:00～16:20

2. 場所

宮崎県立農業大学校 会議室

3. 出資者

(1) 外部評価委員 9名（11名のうち2名欠席）

河野幸代委員長、河野英樹委員、黒木覚市委員、坂本康子委員、竹下稔委員、戸切誠人委員、永友薫委員、西田和夫委員、荒武委員代理（堀ノ内修委員）

(2) 県立農業大学校職員 12名

校長、副校長（総括）、副校長（教育）、教務学生課長、教務学生課教授、農学科長、畜産学科長、フードビジネス教授、総務課主幹、教務学生課主任技師（3名）

4. 議事の内容

【説明】学校の概要及び学校評価の概要（教育副校長、教務学生課長）

【協議】自己評価に対する外部評価委員の評価

5. 要旨（委員からの主な意見）

(1) 学生確保

ア 情報発信

- ・農大のフェイスブックの内容が、「こういうことがありました」と連絡事項のようになっており面白くない。
- ・フェイスブックは、高校生はあまり利用していない。若い人がよく使うインスタなどを活用した方が良いのでは。他県のインスタを見ると面白く作っている。学生が、学生の視点を入れて情報発信するのが良いのでは。
- ・県外から入学した学生の入学動機等をパンフレットに載せると良い。

イ 募集活動

- ・入学動機や将来ビジョン等について学生アンケートを行い、その内容を分析して活用すると良い。
- ・県外学生の募集も重要だが、基本的に県内の学生が増えるよう、学校訪問を積極的に行って欲しい。

(2) 教育の質の向上

ア 講義・実習

- ・現在の農業は、農畜産物の輸出などでグローバル化が進んでいるので、英語の教育は重要。
- ・編入試験を考えている学生向けの教育として、基礎学力である英語、数学、生物などのカリキュラムに、一層、力を入れて欲しい。
- ・有機農業概論、有機 JAS 認証講座を開設しており、農業の情勢の変化に対応した教育に取り組んだことは評価できる。

イ 研修（インターンシップ）

- ・インターンシップで出会った農業者の経営を見て、自分は新規就農した。インターンシップに限らず、新規就農した農業者や若手農業者の意見を聞く機会を設けると良いのでは。

- ・研修先の選定条件に、自宅から通えることや、プロジェクト学習の品目、進路につながる事等があり、研修先が固定化しているようだが、農業委員会や役場からも研修先の情報を仕入れた方がよい。

ウ 学生指導・支援

- ・自治会等の活動は、学生全員に役割が行き渡っているのか？
⇒自治会の中の農大祭実行委員、寮の中では寮長、棟長、新人生歓迎球技大会の担当など、全員に役割が行きとどき、各々が活躍している。

(3) 進路指導

ア 資格取得

- ・ドローンの資格取得は、費用が高額であるため事情により資格取得が出来ない学生もいるのか？
⇒本校はドローン研修施設に認定されており、本校のグラウンドを使って民間指導者の実技研修を受けられるので、本校の学生は一般的な取得費用の半額程度の費用で取得出来ている。

イ 就農・就業対策

- ・農大を卒業してから営農がどれくらい続いているのか追跡調査は行っているのか？
⇒令和5年に調査を行っている。アンケートが返ってこなかったり、住所が変わったりなどで連絡が取れない場合もあった。しかし、定着状況を把握することは重要であるため、今後、検討したいと考えている。
- ・全国的に、雇用就農した農大生が長続きしないと聞いている。農大の存在意義の一番は、就農者や農業関係者の人口を増やすことにあることから、難しいと思われるが調査を引き続き実施して、今後の参考にして欲しい。